



遅ればせながらCOFFEE BREAK

あれは、中学生になって新しく英語の授業が始まった頃のことです。参考書を見ていると、ところどころに「COFFEE BREAK」というコーナーが設けられ、ちょっとした蘊蓄話を書いてありました。恥ずかしながら、当時はその「COFFEE BREAK」が「ひと休み」というような慣用句と分からず、コーヒーを壊すのか？ などとうやむやのまま、結局かなり後になって辞書で調べ、ようやく意味を理解したのを憶えています。

…と、そんなことをふと思い出したのは、最近妙にコーヒーという飲み物に興味湧いて来たからです。元々、両親が「お茶といえば緑茶」という家庭で育ったせいか、幼い頃から口にする機会がほとんどありませんでした。大学生ぐらいになり、やっとコーヒーを飲むことが増えて来たものの、その当時は美味しさを感じられなかった上、強いカフェインに耐性がなかったのでしょう、夜なかなか眠れないなどの弊害に悩まされるようになり、社会人以降はすっかり緑茶派に落ち着いていました。

しかし今年に入ってから、通販のサービスで偶然ドリップ式のコーヒーを頂く機会があり、久々に飲んでみたところ…あれっ、コーヒーってこんなに美味しかったっけ？ と、新たな発見にビックリ。その後、色々な種類のを買って飲んでみるが増え、今では毎朝自分でペーパーフィルターを使って一杯のコーヒーをいれるのが、楽しみになっているのです。

コーヒー通の方には「いまさら」な話になるかと思いますが、豆の種類はもちろん、煎

り方や挽き方そして抽出方法によって、その味や香りは多種多様に渡ります。これまで興味がない頃には、例えば「ブルーマウンテン」や「モカ」「アメリカン」などといった関連用語は知ってはいたものの、その違いやこだわる理由が全く理解できませんでした。例えると、パチンコに興味のない方が「どの台も同じに見えるし、機種名や種類があることすら知らない」と同じように、私も「コーヒーなんて、どれも同じようなものだろう」と、思っていたというわけです。

そんな思い込みはどこへやら、色々なコーヒーをじっくり味わってみると、本当に違う。私がまず感じるのは「酸っぱさ」で、次に「苦み」や「コク」です。よく、新機種の発表会などでコーヒーが出されることもあって、今では一口ずつ味わいながら「酸味が強いから、モカブレンドかな？」とか、いっばしの通気取りで一人で“分析”したり、以前は全く見向きもしていなかったパチンコ中のデリバリーサービスでも、「こだわりのブレンド」などという文字を見かけると、ついつい頼んでしまうことが増えました。

よく、年齢と共に味覚が変化する…などと聞きますが、まさか自分がこんなにコーヒー好きになるとは、思ってもいませんでした。また「コーヒー」という単語の響きが、何か一気に大人びた気分させるのも、不思議なものです。とはいえ、飲む時はミルクなどを入れてしまいますので、ブラックをたしなむ本物の？ 大人にはなり切れていないのが、お恥ずかしいのですが（笑）。

そんなわけで、今現在もお気に入りの「ブルーマウンテンブレンド」を飲みながら、これを書いていきます。いつもこのコラムを読んで下さる方にとっても、そのひとときがすてきなCOFFEE BREAKになっていたらいいな、と願っています。



じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（バジリコ、07年）